青苔案

下

下巻目録

紫陽花や　木の下て
桔梗て　八九月
夏の夜　夏の夜や
秋立て　仲明け
夏賣の　精蓋て
いさゝ立　野麦ハ
惟子ハ　十三夜
多仙ハ　雪もて
雪の花　なかるゝ
塊蓋て　引おろし
野ハ雪て　風流の
藻の実　五人枝柳
朝顔や　笹根越て
夕顔や　傘て
芋続や　早く咲く
水鶏なく　甚すゝし
加茸や　市茅て

復古亭

牛流て　ひらくと
君くる　秋ちかき
稚芋や　牛紅葉り
十六夜ハ　やらしや
世さらそ　波よしと
何生しき　ちり菊の

右哥仙

ぬきてり　右五十韻
松ひき　右十二句
旅人と家見　生なり
旅寐よし　とらぬ雉
萬藹り　蜻蛉乃
江戸桜　名月や
野あらしは　みな眺め
木枯り　月見ると
文月や　早今宵
踏暑さし　踊る故り

寄蓮や　水寄るや
世ちちや　白髪ぬく
秋の水を

右半哥仙

志ろ子は　松風り
跡しや　焼飯り
銭おち葉　金炭や
霰かと　熊家や
咲すよ　深川ハ
及晴る　涼しさや
けさるかよ　菜摘り
小網さそ　背出より
小傾城　手折や
升買ふ　世渡り
歌仙や　さくきり
財多し

右書斗

毛ようう　三十
井三すての部　三十六
服の部
附白斗の部　三十七

紫房笠や藪を小庭の別坐敷
ふき雨あひす　作り菜俵　子珊
朝日よ朝の子蕨の芽ぬて　杉風
出る蕨のおとを拾ふ記く　桃隙
かんくと有内宮を素たちら　八葉
樹陰　芭蕉
伊賀ちく伊勢ちく　珊瑚
こゝろ〳〵と呼る渡船乃為　瓜
為蕾ま羽織服をて伊勢　隙
ちいさき乳房乃為蕾をまき　葉
商を　芭蕉
山のうふけちゝ下市乃里　珊
為替の使いく旅れ　瓜
四日乃月を中ま　隙
秋来ても　細の五月雨ま新　葉
雲雀のく稲乃を拾ふ　芭蕉
角〳〵と足のすまるき　珊
刻〳〵と山ふ　風

四月乃末ゝ熊沼の人やゝ
清ゝ敷信をこゝにいまゝ
至代酒癖くゝ辞のわゝまて
ゝゝなきを 伊達
叫儒し 利上をゝ
ゝん後し今翁ハ鞭を
徒様な者を汁よ
見世ゝ弟ゝ
ゝ分ゝゝ
ゝゝ也ゝなき 著ゝ
栗栗の
国ゝ
軍ゝ一白
義汲み
今のゝ
日用乃
鹿後
小舟を

篠
楽
茨
珊
風
篠
楽
茨
珊
風
楽
篠
珊
風
楽
篠
珊
風
楽

本代ゝ計ゝ
西日ゝ軍ゝ
旅人の
ゝきを
月俗ゝ
徹 同
鞭 遍ゝ
名ゝ
八ゝ
中ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ
ゝ
ゝ
秋 風乃
ゝゝ
ゝ
巡

翁
項
ゝ
翁
項
ゝ
翁
項
ゝ
翁
項
ゝ
翁
項
ゝ
翁
項
ゝ

何ぞも蝶の現てあるなる
みゆるかの力さへ　な業
羅ゐ日をいとそるしかりち
然堅ゐるさと伝ひ
手事ゐ紀乃筆ゐ頃ゐ
酒くを沙ゐ乃ゐあるあまちん
双六乃目をのそくそ言ゐ
假乃杯　仏よむゐ念　仏
中くゐ出間ゐ蓬小奉ゐ
高谷を里れなゐ
悩まくゐ踊乃形を奏
月夜くゐ　明流る月
花簡あゐまゐ孫けバゐ桂く
唯四方ゐる　草菴れ露
一貫乃銭むゐと　逆ゐ
暦ゐの革を　鈴め分別
出咲ゐを　ゐのあゐを
蛇ゐさ　乃山中

邑　頃　ゐ　近　頃　ゐ　義　義　ゐ　頃　義　義　ゐ　頃　義　義　ゐ　義　頃

物ゐ事ゐの月と日の出る山河
震くゐ雑子れ　帰ゐ川　野坂
家普語を奏の子透ゐれ
上れ　あゐゐ　あゐる　義の直
青の内ゐ　ゐとゐ　月の雲
義誠を形を　秋の俳ゐ　義
出ゐ第ゐ　義　逆　坂
姫を望ゐ　人ゐあゐ
ゐ出ゐ　ゐ　ゐ　義
こゐ　ゐ　ゐ　義
頭ゐるみゐ　ゐ　ゐ　坂
日ゐ　ゐ　ゐ　義
絵歌尼の扇　義　ゐ　坂
ゐ　ゐ　ゐ　義
初尼ゐ　ゐ　ゐ　坂
家を　ゐ　ゐ　義
町家の　ゐ　ゐ　坂
門ゐ　ゐ　ゐ　義

東風〳〵に糞のいきれを吹まはし　蕉
たゞ居るまゝに肱わすれぬ　坡
江戸の左右向ひの亭主登られて　蕉
こちにもいれどから臼をかす　坡
方々に十夜の内の鐘の音　蕉
桐の木たかく月さゆる也　坡
門しめてだまつて寐たる面白さ　蕉
ひらふた金で表がへする　坡
はつ午に女房のおやこ振舞て　蕉
又此春も済ぬ牢人　坡
法印の湯治を送る花ざかり　蕉
なは手を下りて青麦の出来　坡
どの家も東の方に窓をあけ　、
魚に喰あく浜の雑水　蕉
千鳥啼一夜〳〵に寒うなり　坡
未進の高のはてぬ算用　蕉
隣へもしらせず嫁を連て来て　坡
屏風の陰にみゆる菓子盆　蕉

八九間空で雨降る柳かな　芭蕉
春のからすの畠ほる声　沾圃
初荷とる馬子もこのみの羽織きて　馬莧
内はどさつく晩の振舞　里圃
きのふから日和かたまる月の色　沾
狗脊の枯て肌寒うなる　蕉
渋柿もことしは風に吹はから　里
孫が跡とる祖父の借銭　莧
脈指に鬢くほしうる旅刀　蕉
煤をしまへばはや餅の段　沾
約束の小鳥一さげ売にきて　莧
十里ばかりの余所へ出かゝり　里
笹の葉に小路埋ておもしろき　蕉
あね屋に川有て門の手つけ　沾
消〳〵に後は沙汰なき甥坊主　里
やつと聞出す京の道づれ　莧
有明は起して窓のそとあかく　蕉
足軽までそろふ藪のたへに　沾

去年をかけ[illegible]机の作者失
伊勢乃下宮の角つぼと遊
長崎の茶乃仲男そハくと
ムハ[illegible]と宮の時を書き
弾ちな一日おそふ物乃上
概の角のそてぬ丸完
清あしの年な俳をそふし
なまぬ坂よハ[illegible]ふ門俳
月御な俳茶荒のおそろひ
雑の茶乃為をふ
望かて来て茶も板も武蔵
俳俳そう名　野乃ゆき
制ぞうな長刀坂の名井俳
中為さな望乃こ[illegible]
引そく宗祇な義をなやそ
そ月と出入ろ[illegible]
故をそや球ぬ者の為所
流ろ[illegible]の名る名ろの水

芭蕉　里　作　遊　里　芭　作　芭　義　芭　里　義　作　芭　芭

京豆乃函嶺ふ[illegible]ろ　妻北家　孤屋
豆の名鶏乃そ[illegible]る藤川　芭蕉
上張を豆さぬほとの西隠く　利牛
ろうとのそけて酒のそ年　密水
藤原な祭て長安方の月　義
ろうと塚のころの秋　を　至
きりく長新のすり昭和て　牛
嶺乃仕事の工夫をる　あ
いまをを能ひ所ろ賞ハる　屋
俳教のそろへ川みを考　義
風雅な教明ろ長の昭浦を　ム
茶の流まさあとを[illegible]　牛
新汁ハ名考ろ絵ろて　義
茶乃買重とちろく賞賞　屋
武蔵ハそ茶荒の静なろ　牛
望しやれなを今ふそて　ム
雪の弦吹そろたる鹿月　屋
ぬとん危げく面　義

不届な隣と中のわるかりし　丈
さ川ち場をと上へあかりけれ　半
泣事のひそかに出来し浅ちふに　蕉
亘目を流る加減を見る　屋
真の紙くさえて庭を行ならひ　半
家を譲りて捨る姨蓑　丈
今のまに雪の厚さを指て見る　屋
年貢済んさとほめられけり　蕉
息災に祖父の白髪のめでたさよ　水
堪忍ならぬ七夕の照　半
名月のまに合せたき芋畑　蕉
すさくけにて蕎麦粥　屋
汁鍋を竈の圍うもとさはし　丈
山の根際乃清かたつかし　半
よこ雲にかすむよく風の吹わたる　屋
晒のうへにひく雲雀鳴也　丈
花見よと女子そろうて連立て　半
余乃畑荒しに菫たんぽぽ　丈

於半居

夏の夜や崩て明し冷し物　芭蕉
露ははらりと蓮の椽先　曲翠
鶯はいつその程にきえて行　臥高
古歩草菴に反故おし也　惟然
月影の雪をちらする雲の色　支考
寺ふりて鐵とかる鷺かな　蕉
猿と狩場の前へ追よせし　翠
山うしろより花をまてあれ　高
飯櫃なる面桶にさむ火打袋　然
きせるて工夫を去る出僕　考
転りかゝる家は譲り媒代當　翠
掛物乃わりに名目売し也　蕉
草堤に藻を荷なひたなこみ　考
秋風わたる門乃居風呂　然
ふうつて娘ひそむる月の影　高
尾張てつきしみとの落葉籠　蕉
候好のこそしれきまあらはれ　翠
正月きの襟もとき涙　高

夫風は善悪の清濁をいたす
敷うり村くめ帝うり乃
嗜ゑめ舞も暑もきめて
何その時も山伏よ女風
毎つとを樽よ舞うるさき紀
蔵こふるる卯月暑て来
ち病中を拾えよ前矣来の町
除の日和よ雪乃事を
居こうゑをきめ酒の清濁
見えく乃おと毎へあつ家
射付一文銭来ち自の書
そろ〳〵あつ〳〵盃の上鶴瓶
出籠つる四菜の角井河原町
ゑる涙をあ〳〵る表一図
今井乃ゑ詩を見位さ格の上
大キよ鐘乃ちんまゆる
壁なるあまも扉ゆよて
勝うみつこし一茶柏の下

秀 紗 蕉 寒 紗 秀 蕉 寒 紗 秀 蕉 寒

妹立〳〵早瓜幸き西瓜
数岳市〳〵〳〵と〳〵月
早稲岳墨とすう結二用
人をうるる辻乃市神
昭和〳〵満〳〵男田舎孫
帰行つ〳〵小〳〵此の隅
番拾〳〵舟のこけ〳〵拾見
えを祭祀の繁たを稲
岳乃〳〵ふ雑俗祝の名多
霞ゆうれ姫かをゆき
掛〳〵盆合瓜の市乃歩
瓜市〳〵と牛乃姫瓜
月はの酒〳〵世絵数きう〳〵
日和〳〵むき一雷の朝明
う〳〵と掛数ゆよ花書
荷ひ蓮うる乃八州
悔廣き砂川源る書閑きよ
拍織採ゆる傳ゑう

珎碩 昌房 正秀 探志 及肩
之道 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

行ふて紀氏の家に入る六日
菓を休む 嗜を の 味 乃
毋親の仕立てする 嫁入船見 秀
立てさしむる上那山伏 房
江戸店を扮て立ての門搬 頌
麦を蒔る馬を 明の乾さし 乃
思引の子を蒔る馬を きさ 志
青の小麦を蒔 生ある 肩
立てんと田の伊奈蒔 秀
むを蒔る 秋の 蒔 肩
山畑の麦穂を 月 の 秀
石地の 始を 帰 る 家 坊 頌
情剛を 毬井 の 大 立 味 て 乃
かさ 麦を 麦を 奈良の 隠 上 肩
地の 隠 を 麦 花を 地 慶 秀
かく と る 春 の 喫 孔
菜を 蒔 ち る と ち る の 雇人 志
上 隠 る 鶉 ぬ す む 白 孔 隠 房

御明の 隠 く 拡 喪 や 書む 探志
月 さ く 孔 庭 の こ 孫 む 西秀
旅の 去 田 八 業 を 荷 何 ん 昌房
る 城 幕 の ち う 妙 さ 文考
廣 殺 の 軍 鷹 と 人 る 亜 さ て 文 義 秋
又 こ う る 奥 の 焼 や 及肩
窮 庭 ふ 頻 難 年 く や 蛮 楚 紅
書 を 走 る 赤 金 乃 鶉 志
山 伝 ひ 伊 賀 乃 上 野 の 乗 て 秀
狩 手 の 集 伝 編 う る 子 益
わ 来 合 の 和 る ま り 人 物 孔 孝
小 る 悪 川 蒼 ま る 麦 垣 の 上 房
名 月 ふ 信 地 こ ち ひ 庭 百 秀
別 河 の 碑 の ほ き く と て 紅
伝 る 年 ち る 尻 悪 よ さ 鬼 益
る の ふ る と く 年 ま く る 文 志
咲 玄 の 隠 る 麦 の 去 く 肩
傘 干 る 青 の 去 面 房

[illegible]ら一組歩して
日ごろ沖なる岩の孤
見る中 西上 [illegible]る 叡仏
湖水を [illegible] 過ぎぬ
仏象ハあ静なる勢田の夏
荒のたゝ [illegible]のつゝ 松明
[illegible]さきと大鼓 [illegible] 自るゝ
[illegible]を情 [illegible] 志
僧裏や熱の [illegible] 留を手仕舞
云ふ [illegible] 如 [illegible] 解 [illegible]
お紙より男世帯の寺 [illegible] 好
たゝる [illegible] ことより 法華寺
市振の関 [illegible] 西ハ能生の
浄陶院 [illegible] [illegible]
関まちより [illegible] 町 [illegible]
ゐ [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] 紙 [illegible]
あ [illegible] 花の [illegible]
[illegible] 軍成 [illegible]

秀 考 紅 芭 肩 房 志 紅 考 秀 肩 紅 房 芭

振賣の [illegible]
[illegible]
書 [illegible] 懸の小 [illegible]
[illegible] 月 [illegible]
好 [illegible] 秋の風
制 [illegible]
細の [illegible]
[illegible] 二十八日
[illegible] 軍の [illegible]
[illegible] 雪 [illegible] 新 [illegible]
[illegible] 拙灯を吹 [illegible]
[illegible] 病 [illegible] 冬
上 [illegible] 日い [illegible]
[illegible] 七 [illegible]
塀 [illegible] 門 [illegible] 十 [illegible]
[illegible] 鐘 [illegible] 月 [illegible]
砂 [illegible] [illegible]

芭蕉

野 孤屋 利牛 芭 牛 芭 芭 牛 芭 牛 芭 芭 芭

新畑乃農も新たなる雪の上
雪とふるまで見えよりて
川城の常にはあらぬ
年暮乃ちかくなりぬ教恒
干物と日向のすくまるまで
恒岳を暮乃苞不とくく
其間を浮世と言る京住居
又海法形にしてむしろめ麗
ちさとちとち嗚呼四つの雑
貴重したたのむ快のあと先
中絶くく傍軍合の侍りて
雪を多くおくく藤をあ月
風やうて秋の路の庵さう
親乃写る子はよれ紙をいかる
ちほとと茶の杨場の幻屋
目墨乃ちのつきの行ちまく
ちと茶苦はれ三月中はか
海原のちりを拂ふ春風

盃 牛 坂 蕉 牛 盃 蕉 坂 盃 牛 坂 蕉 牛 盃 坂 盃 牛

猿蓑より

日を宮ちとふ
あかるく池の中ちりあるて
篠井中ふ原栄をいくく
弱ちあるとやうく雪の月
雪のなきまよ人世ちる秋
盃をひ一茶の生きる鶴の
屋庵の立蝉を去り色ちう
蝉ちを茶ちの川ちよ海
中玉ちの快乃古た太
朝日の日をとこやく振蕉
一百羽織ち光ちくちつめる
きちんかまを紫の比乃根
山ちり門をる有明乃月
初あく留れ人のけよう
夕際光る侯乃小鶴
尽て百紀之井八面の鳴ちう
荷拾ひちよいく永年日

猿蓑 芭蕉 支考 惟然 芭蕉 秋 考 蕉 考 蕉 考 然 蕉 考 蕉 考 蕉 考

東風なをの又一雪ふり甚ふり
わらをもて脚をたるるうるを
後年の内後ハ元長屋敷ゑ
咲咲乃さくもむさとをしの
六七月ふ日ゑ二日ゑ雪の降
雪うきふ〳〵仲のうろ乃
ゑる極の京都い皆出家所
奥代世華ゑ近年乃他
酒もも者代やきを月ゑ
京鶴ゑを庵乃ゑ西
定ゑゑ西姫のうろゑ吉川め
麻行乃ゑゑる之移ゑの夏
多鶴を行ゑゑとおこを松の風
大工きひの奥ゑ此中
京橋色ゑのゑ
ゑゑ市乃ゑを押ゑ
ゑゑ保生ハ花のひゑ
鴨乃油のまゑ

珍 京 秀 珍 京 秀 珍 京 秀 珍 京 秀 珍 京 秀

雲月八日ゑ奥 杉風自筆之写し 義

いさゝ立雪門ふ降るあ所
流の形ゑゑ枯京多茅 佐圃
宿をつ花乃居角ゑ
三味線さゑ孫の食 百芝 蕉
夕月夜京豆腐ゑ
会ゑゑ 秋寒きなり 圃
雪ゑゑ誰の門ゑゑ 芝
大茅の茅代茅 蕉
力なく脚ほおゑ 圃
俗ゑ加ゑゑ紀 京 物 蕉
自俳者ゑ六ゑ 圃
ゑゑ祝ほめゑ 芝
釣乃鯉桂郎 蕉
伏見乃橋ゑ京の 圃
情ゑゑゑ八ゑ 芝
親仁ゑと皆 蕉
月色の青ゑ仕 圃
仍ゑゑゑ候ハ 芝

蘭の香のうつくしき門の内にたちそこなひたる樹の陰に
時の日は一むら雨の降過て
蘭ちる琵琶を出す悔の
雪のあとの山を
一ときに松すゝの
仏法おそ
黒紅の小神を
ニスの茶碗を土産
月弦の
ゆきの一書
靖の
秋の
なかばの
石公
因合

銭別

新麦八つきとりめめを
まゝ
百姓
四五千石
方々
踊の
蛍
伊
蓮
俳
雪
只
電
奥
今

妻は日は産屋の仏乃法をも
かりそめ〳〵や陽炎のみん
そうく苦とて言とれるひ
日法〳〵とあるを義俊を
うひ名る樣林は日ゝにわく
仏の本地を法華経第七
こ弥〳〵と印摩あをて鄙云
そゝろよ仲の山ゝ仏
羽二重乃赤きる色あひ
若い時うゝ神をうまる
緒をゆゝ盗乃一二乃月
らけハ嵐〳〵山葛乃葉
日光〳〵ゝうゝあるを秋の沢
ゝ〳〵形むし身乃事
夕風よ蕭せの家を破れ
そのうせそやゝ法をゝ日
花乃あゝ門を望山をかつて
茂義うゝ黒若れみゝ

店
蓋
店
蓋
店
蓋
店
蓋
店
蓋
店
蓋
店
蓋
店
蓋

惟子ハ母よ〳〵冷〳〵賜の髪　史邦
椒一朱珠　稲乃こゝ貨　色蓋
葵の種よ蜀油の饌をゝ　俗水
お市ゝ人乃ゝ多月
木刀の名ゆ〳〵ゝ歩合　秘
二枚をゝ〳〵れ為ゝ　板
宮そゝよ葉の中紙吸ゝ
石丁なれハ毎　法隆寺　北陸
手面立よ雑蜀　千年　設屑
ゆゝをたまけぬ小　鍬
肌きき傑の釣茶呑合
秋へきき乃筋手ゝ
極濃よ俗徒ゝ宵の月
手信ゝなゝ　古代さら
お なゝの釣利ゝ結ゝ
土焼〳〵泉乃多蜀
蜀よ庫〳〵一年　表粉
小性乃口の意ゝ　三月

店
邦
蓋
邦
蓋
邦
蓋
邦
蓋
邦
蓋
邦
蓋
邦
蓋
邦
蓋

行橋の内うら家に蘭　完　芭蕉
百姓　橋く役を家う
夕暮より洗濯　賃を投げて　あ
とまぬもいろ〳〵　蕉の吊　邦
桐うら来れとおもふ　夷講　蕉
世あ〳〵くさ明日は何百人　あ
お拵ひの家〳〵　麻とる場所　邦
百里の海〳〵　舟の夜〳〵　蕉
月割〳〵　土代　桜木代　行足　丈
家をそそ　月　蕉中に生蛍　邦
明ふ　稲　明より金なき月の書　蕉
ふ〳〵を　稲〳〵　略のけつへい　あ
拵師より　橋く多分〳〵　庵幸　邦
傳子　ひさぬ　ら　布　碧の舟　蕉
小南雪隆　き　の　り　つ　あ
二夜三日の　絵　ち　あ　ふ　邦
老者て今〳〵　星　系　の　玉　蟹　あ
百姓やも　苗　し　ら　の　傳　蕉

後の月尺蕉庵　芭蕉

十三夜　院　雪　代　て　名　月
小袖　乃　綿　の　こ　り　な　唐　絵　蕉　る
焼　飯　よ　れ　乃　綿　漬　口　明　寺　邦　蕉
荏　胡　麻　の　し　に　四　十　崔　つ　史　邦
雨　家　法　く　蕉　て　干　菜　の　あ　く　合　枚　風
こ　み　く　き　流　も　風　呂　乃　あ　考　盛　水
切　麦　を　ま　約　新　よ　す　こ　涼　菓
来　手　紙　乃　し　栗　橋　の　寒　蕉
松　枝　を　た　ち　く　掛　る　寺　の　門　良
こ　ま　や　文　名　代　そ　の　こ　〳〵　子
畠　乃　月　を　を　か　く　さ　ぬ　蕉　を　あ
な　く　く　く　蕉　し　孫　蕉　く
蕉　月　夜　麻　乃　夜　の　新　法　師　邦　蕉
家　俗　家　う　し　菊　割　る　秋　風
赤　房　を　打　よ　至　る　孫　豆　の　家　子
蕎　打　ら　よ　片　器　の　器　つ　蕉
先　付　と　筆　と　た　し　む　る　初　恵　よ　系
う　久　比　を　帰　く　孫　と　孫　よ　あ　を　蕉　邦

麻笠みな傍とうとたく一節切　示
中納言くちなむ月のひさえ　蕉
見る見るに庭に色垣のあそて　景
新月は似合ぬまんちうの好　邦
豊島ある屏風の牡丹見て帰　湖
毎日さぶ川しくもる旅亭子　示
鳥うらん京は夜あるゝそ所　邦
足ハむらみて何京月夕う　良
またれる夜市編笠蝶のおそ座ま　蕉
伯母のなつの顔知人の顔（イニヤ）　子
冬の月宗祇其角の穂にけして　良
枝もく菊の香く匂くちいさな　系
露霜よ土こそけうる皆のうち　子
ちる里ほそ見るにあぶる斎屋　五
初老ハ世ひのかは安か雪ぞて　示
借し養風を通る夕暮　湖
春の又花をちりし空穂　紫
星ちる月ちりのるの一夜ま　邦

路通
手仙ハ君が肩を妻に抱る色
窓の袖見り罷く筆図　李皆
我猫との猫連て帰りひく　芭蕉
ほしつきみる清浅の月　亀仙
槿ふりぬ糸爪のかしみあひ　泉川
仁と以ぞ来てつある白露　執筆
鮮へ手藻葺て巳わるを移て　皆
宿る古風の残る奥筋　蕉
免つるしきうち出て見る後人　仙
秋も深うしくそうの川ゞの子　通
汁軍に揚つるへる布をとる　蕉
鮮そなく蛋名月の尾　皆
はらくと蔵屋梅の香の声　川
一むれあく家　居の絵家　仙
打ふりへ埴色を来れ筋かひ　通
乱より後も知らぬ年号　蕉
猿猴や云下る化綿生きの東　川
雪の野辺もあそそまく夜風　通

此花乃うへを浮世ともしらて　道
彼岸まいり気を瀧ゆきゆく　松
ゆきちかふ年よ旅子に似たる哉し　沓
いきぬ身のひの知れる海鳥　川
元結のほつれてうつる衣かな　通
人乃情を猶うかりく　兼
諸やて荻咲秋の悲しさ哉　松
陀仏さへ木曽乃橋の雲　通
月の宿亭主ちかつき拵ふよ　道
枯なる舟のすこし他ゆる　沓
唐人の志れぬ祠ありなまて　川
喜ふしく借りかへる俺　草
物定しるも須臾見え始なり　通
庵乃家を借りて住む雪　川
朽木の山笑の上すまく角　仙
赤き、うしろを掃る青柳　通
義さかり辞る首を取風そ　苺
うそ読す拝みて中ぐらの夢　沓

依め

雪よとに胴乃身わむ佰扇子　路通
なやくく窓し浦の塩やき　翁
さかくくの莫の外も手に取て　友文
むしろくく扇の外よむく魚　ソ良
のぼりて筧や梅咲ぬ月夜　宗波
瓢箪苔よ妻乃をむかまで　桃竹
一里ハ其の附まての祚さかく　雨内
月よりてらん行翁乃釜　夕兼
加はまる手紙と夜の草枕　縁縁
うさふく松よ母のおもかけ　通
宿かりて武蔵の川の三井の坊　翁
ちうしもちまる俵一俵　文
放されく狩とも牛の中よ涼　ゐ
つらへまさいる旅の以すつ戸　波
西行の像を浄める浦の月　旧
尚ふるかれん嶺の猿の聲　言
前生を枯木の枝よ棲えくて
妻乃あるひは母はかたらん　通

飴賣の聲をいくら炎天の里　来
壁に烏なかせてたゝるゝ之　竹
後の世は羅とやなりん毒なし　又
九淵ハ蔵々まさ石の垠　言
下ひの松うこく花を吹おろし　弘
むくろ斗を訪出ゆる月　什
秋寒し衣をかまへのうら　蜀
瘦さ体乳をしぼる春なさ　糸
こもめ覗くよ猫さし窓坊やの内　蔦
娘ゝ小聲も情あらし蔵　廻
その後よ刷る便を待たれむ　良
生木燃しくあさ顔の日　弘
行く八袖なる方にある時雨　竹
悴ハ人ほそくくるしさ　蔦
夏笠をあたり屋に見る熊谷　又
峯にハ猿乃小猿手をひく　糸
優婆塞も旅よぢやうこくん　又
麻乃羽おりにつむ山寺　兼

詠　廻
雪の朝ハ仏の前の読経よ家つねよ
花盛をさえ菊梅の早咲　宗波
うら淋しき卯の頭に酒乃会して　女立
重帝あちこち旅立は宿　蕉
あるひする舟乃帰る訪る月　伭水
火をとるく宗とはしのそく秋　夕良
てらしとをさおろ出代髪結く　夕菊
朝日よむかひきて珠数の緒　弘
生乃つき見あくまよ人の御心し　良
歌よう絲く志なすも有る季　廻
世のさまき算も読さ霞ハ稲田　波
蔓乃あくさ張かしは壁鼠　又
冨士信おひねあはれを草枕　蕉
母乃御をかくまよ本所ゑ　水
虚敬り白絃の橋を居なく　立
酒ともなは冰川のあ　兼
よもすがら涼みね八月まつりて　廻
やふきおふ第の背をつなぐ　又

初秋はやう惟子のそうきちう
脇ひつひてあくむ　ひとの
さんせいよ路乃夏のうれてき　素
ゆ〜〜ふ春よつるくみつる　爺
ときひつる恒根よ芳乃深みて　丘
うそうそうそうふ松蟹あらそん　丞
州はよ山うるつきもうの稲　乃
あ〜〜よ月と吐初を重　良
稔山よあ〜ふ仮乃彩う多　素
こるくをなくもゆ緋の木　爺
すみ〜乃何をう嫁のいそうふ　五
ゆも苧子よ山うし〜乃家　丘
文字ひうみ〜そふ猿の上　角
はなこそひく素いくと　京
俤をうき世袋よ紬〜そう　丘
言賣うく河ひくく　又
花よ翁冷男よ名余つるん　乃
爲よ五とう〜紙海の香風　素
爺

大題庵乃四集其　爺

そ代うさちんそ枯木の桜の長
ちうう春く咲うし〜かきの泥　夕素
業恒をみの作さを面やうて　苔翠
風乃吉なを　うあ〜を和の言　友山
門河のくほう新うう津る月　素堂
油菜をかくる菅　代をうち紫　路亜
つめうやうそひてうあ嗜て　丘
家をあるそ家　素
矣さて爲の表をおるうて　又
寿英〜き高仏ゆゆる　翠
山うをなうそかさぬく塔の江和　亜
澤を新を雪のあけ和の　素
穀の月風すくうひよ新神く　京
地ういなつ乃の稜をまうん　爺
ひろ乃風食代童あるう秋の春て　雪
寺祝よ年とう春〜〜師の場　京
年の偽あの岩年とつうう　亜
のほう小新をくまん岩川　又

つゝき身代限りとなりて日暮し
良りほうをくやむひのみ
能元をむなしく年月の内
猶ハ赤木の松を苔をとうり
苔をこゝ仏の掌を松く
月とあるひとく笑うねるゆめ
みつ神よりつをおうむ月の新
奥しくぬを年の一株
義仏の義云乃俺の戸を明く
月を堂代をうるなし
法皇をうつをたちみの言きて
宗長よりそちぬ祈師なるん
四月居を結ハ人なあくまれて
年をも亜ぬ亜乃砂嚙
をあるの堂の鈴村の之
妙をさしわくかゝる後楊
法お地よ貴を鈴る金の張
妻ケ月く切 秀代一村

野童

蝿華ゆをや初秋乃日数れ
蓄れうしゆくかゝりの鍛
小対をうちぬ義よを挿く路亜
鈴しく年るる奥のうつる史邦
一亜みそ出よ墨る鈴月うり文州
角くそうくとれうれる亜
井ゆくいをれぬ金見ひ兼
よ月をひよ出るのう
和于のを月ゆうりてやうき
生見をうへる芝の小角
中宮ゆき去る義くを亜
法うかハす早乙女乃ゆ
石仏いつきうゆぬハなうう
牛代貴りて出川てをや
西の法うを人あをくハ辞ゆう
宮乃ハしゆよ義あひ法
みうれくハ笑うり月のゆくる
唖ん言似ゆるうちの営

鋸きさ乃友を得しゐ春の雨　邦
家ハ力に志むる義けり　菜
おもしろと言ひし魚出づる　通
珍しくとる旅の夕やさしは　翁
何とハ捨ひ汲分は古茶麗　堂
明日つくらや雲に嘯く　邦
住みなく連しも嵯峨の辨当　菜
畠乃中をうり出る嵯つ　通
岩井に継ぎ後も夕月夜　翁
蹄に鑿の入りぬ　番々さ　堂
やたしなとちやうら如のを秘え初　邦
乃簾乃弥酉くり華やさそひ　艸
時なる若く鳴くく通りたり　通
きぬの中をおろしとや桶　翁
山路も片側なりさらひ　堂
食苞けしく黄な子の上　邦
仏にハ形見の夜を在所　菜
葉をとつむ蓑乃ちらぬ暖　通

旋雪堂席

寂しさは露乃落や鉤の内　丈艸
樹は旅路をとり横身　文考
月よ狐狸の糞を喜しまて　翁
孤山の奉り嬌のなく遠　史邦
藤さ雪と藤の労は至の匂　去来
紙ま添くかろなな涼　望吉
人は見ぬはくハ泣く息ゆひ　考
千貫を身ま由も刈ひ袋　丈
山合は猿のさかなる枝流き　邦
尾張をうつは本尊の古根　翁
破を踏る茶碗一つハ咲うな　幸
かくくあるは時なる堂の尻　来
薪汁多まやくへと見えりる　丈
酒の時かも中の夢の月　考
串笛を弐りく冷ゆる秋の風　翁
出乃嘯へな庵をとうしく　邦
志さく秋稼すく人もなりたり　来
来てく松な乃春　堂

小乃方の雲隠よりのこる雪　秀文
松代のやうに白うなる年　邦義
酒入の小キ徒竜巻きれすれく
雷の落ちるおそろしき音　義重
蝉しきりつくさもあたを招し
ひさかたの空を靡くも雲たて　茶文
門きりし桐の枯葉をまて
蓋あ焼く雪よ　なた定　秀
夕食をやて白る蝉あてき　義
山雀よあらぬ中立乃門　邦
中の月をこそ元雪の山の端　茶
空乃仏の名あまたなり　重
垣つたに酒屋の前代萩咲く　秀
少年のむつき代千物賀作る　文
傘たむけあも花の雪やれ　邦
行一口もちくぬ森の日　義
雲雷を掃あつ雲を吹うる　重
酒のくつろきくなる酒を　茶

味噌去　漬紫

聖ハ雪よ河豚の涯と知あ去ル　漬紫
まさ雪乃明きそくぬ春　千川
門雪の麻白よ霜月とく　義
ウさむき　初乳お裁の橋　京波
秋風よ蓮と名ちなる裏山　岱
雪と西瓜ハ月さ名えちなる　酒子
朋宮く庭のうとをトにすく　川
多年よ上雪を分く悔めく　紫
尼ちの花尼ハ独髪刺く　子
名ちハ薄のうちよ社あル　義
掛涼ハ小神の徴をとを　義
金乃雲を国乃雲くはき　川
見ち度よ源氏一紙の君ハく　紫
於くうき世代やを伊正　波
ちなおも伊セの料理簾おて　義
裸足くあちく門庭の砂　義
新月よ茶の茶和ち川き立　川
日新の花乃雲下清めく紀　紫

石屋る店のおくハ武蔵野　節
地れの様子見ゆる名苗字　翁
宮参ハそこ家康の旨をたてし　紫
ちるいつくも四ツ夜の秋　川
中の月ま梯床にちらし乙塚の被　布柳
兄よりの竈をとりかへし新　紫
先ずかれ出依敢の一繩ま　翁
着て居る内よ帷子乃千ル　布
うつくしさ秀た蔵ま葉かり　川
哀たるをなる誰の影目　柳
三条乃そしより西ハ村雨ふり　紫
築や乃二階ハ酒乃擂留　翁
見しき鬼も太わり手なく　布
恨乃穴を附る妻乃手　川
茶咲も文来て出る塚の上　翁
直荷りまを豊葉ある不　紫
流雲雀夕日とりをみ嘯つく　柳
あち了まさふるよま風そ吹　筆

蕉庵會　瑞紫

風流の声とと鳴やほそ手に　翁
籠乃草鞋ま印の筈の宮　吉山
砂川よひすと丑倉の彼く　以良
門ちる会る譽あ乃簾あさ　瑞子
月の顔ハ戻つぬ衣ま静なり　嵐菊
きらひ西瓜を今宵てしき　嵐菊
庫裏姥の手をつねる島筆　岱水
ぬるみひと川こらむ　六大　曲翁
三ツめより今ちらし嘆ぞ　嵐雪
分をあるか後為まねを手　紫
川柳を痛く鼻をかくし合　翁
床債とありハ不許あすする　出　誰
入新ももそな高壁の顔の月　良
恰を蕎めて　新参人　山
蝉ま備る肉と挽りし　曲
小舩乃文をさる　村し　雅子
此ちま刺をあやとめるん　菜
ちの乃虎を流も雲の　岱

入角も四輝さ似たる行いうき
行るをきけをを色合をと天
ぎうゝぬ等人参れ費所 紫雪
又ゝ長ゝ屋根ゝ屋根ゝき 山菊
ゝ捕ゝ霜ぬ根の葉清おを 子
蕎麦れ形ゝ多るゝ日の振袖 薬
迎ゝ多ぬ多神し掃ゝ拵ぬん 雪
ゝ多ぬ多(イヒ)紙の おゝ品のおゝし多き 紫
葉分よ湯品云分る伊セの江師 盆
先日和ゝき 秋乃中の 長
榜石色の葉ぬ多るゝ色後の月 菊
稲刈 つゝゝ小ぬ京巴 山
物の尾房さけ 雄の童 雪
雄氷乃実よ おるあ 弦 薬
衣海ぬ ゝ中を重ゝ 紫
様踊ぬ ゝよ酒ぬ ゝ 盆
やゝやゝて菊ゝ送る云の者 子
巣を 香 るの今 怖さ 長

様を代表日光へ出代と弟敵ゝ
鹿 従を 国四兵衛ゝ 行ゝ
孫乃雪ゝ ゝ多ゝ 巣ゝ
壮年の 苦を 孫 千川
短歌も月ハ ゝ ゝ 赤紫
陸ゝ多ゝ ゝ 跳躍を 花柳
雪ゝ ハ事ゝ ゝ 川
出口ゝ ゝ ゝ 山 菊
吟(イミ松)倒を 松を 部子 ゝ 柳
いゝを 雪春ゝ ゝ 紫
大の子れ ゝ ゝ 青山
稲ゝる 日ゝを ゝ ゝ 川
雪ゝ ゝ 曹 ゝ れ ゝ 菊
流の ゝ ゝ ゝ ゝ る 代 山
生ゝ ゝ 紙ハ 絵ゝ ゝ 紫
雪ゝ ゝ ハ 先 ゝ 柳
巡礼の ゝ ゝ 旅の ゝ (イヒ)川
見ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ (イヒ) 菊
苦石ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 山
狂ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ 紫

春隆法師の貢を思ひ
とうとくくるる所乃姿山
陽寺の法衣干る日を待ちて、
宮乃やまをへて和泉
林しさまをみ吉野をたづね
雲乃麓をそ何時の山
萩島を貢乃峯より川
伯耆乃門をあくく月の秋
人見の母同志あきさきを大舟
函をとうとう神くく笠を忍ぶ
きもとと日比わたひ死而
隆お面よさいく梯乃書
隆弟の好きに矢並を結く
岩よかやあ一門の金物
院内よ宮法川内き法の夢
えかしとなかくやむ筆
公者いかに門すう宮なる法の法
墨乃せいのみゆる苗代

十人技掛ろうてあるく柳うれ
日ろくくよ雲霧乃ちる
猿引の月をとり山郷く
そうをとうみける雑子の袋ひ
蝶ふきてもぬれの宗
証利自ゆく砂を買よゆく
丸ことを揚うく旅をく
境の公事の今よ指ちぬ
高白く松も指ち鳥の翼
うき世乃年をく絶ち
瘦痩よ翼を一日揚ちひ
やふへせをとなりく法
鶯隆と頼うる秋乃
初折かちに乃自新
にくよとうの酒を試乃
色い佛く朝乃ちの火
咲ぬよ十府の黄流あ
ちや乗細を橋ち乃ちる

ちくと淡まぬあるよ妻の門　爲
独乃ゑよ夕日ちらくく　坡
初俄雑七よりとる住を篠の宇
焼味噌乃一撫り須ゆちらひて　爲
一撫り結ひと葉ゝそけ状　坡
ゝゝと粉雪乃ゝ門さと降　坡
おくゝゝゝを茅ひよ中ゝさゝ歌　爲
むゝの茅燈今小茅よやむ　爲
市ゝゝゝゝゝゝと寄くめゝゝ子　坡
秋おゝ舞ゝよ板ゝ茅とい　坡
月新よゝ羅仲乃ゝゝゝひつれ　爲
蓑麦井ゝゝを蓑る机寄　爲
ゝくくと相の禁ゝ高ゝ水神　坡
手付くゝある釜の鐙古日　爲
やゝくくとゝき記ゝ髪ゝゝ　坡
猫可ゝゝゝゝゝ恵ゝゝ　爲
あの瓦代ちゝめゝまゝあゝ人　爲
茅同のゝよゝゝ代塠　執筆

朝白や恋い的ゝ影ゝ恋の色　史邦
おのゝくゝと切ゝきやむ　沽圃
絲前ゝゝめゝ月ゝ出ゝゝ　爲
扉下ゝゝゝゝゝ板ゝ月　魯可
はゝゝゝを酒ゝ島ゝの鶯雲　圃
栗丸ゝゝ歌ゝ影川上乃山　邦
こゝゝと歌のゝゝゝ石拾ゝ　可
ゝゝかゝゝゝ恋ゝる麦食　爲
雨ゝゝ白ゝ咲ゝる茨のお　邦
祖父乃ゝゝくゝの茅ゝゝゝ　圃
子供皆ゝ乞神と爲ゝ　爲
絵ゝゝをかくゝゝ手紙乃ゝ　可
きゝくと雲ゝむゝの春的　圃
見世と爲ゝゝ日刻ゝ　邦
鈴鐘を戸塚の宿の待ゝ船　ゝ
投疲病乃ゝゝを高ゝ　爲
ゝゝと苗代めゝ蛍の色　圃
光ゝゝゝ　伊勢の有内　一

嵐に吹出されたるさゝらも　邦
恥かしくなりぬらし　百夜の家　圃
色つよく瘦する身に化粧して　可
葉しげりさまし白雪姫の紅葉　邦
禅寺の厨子離れさせいる蝉の声　爲
弁当ねらく車の花菖蒲　可
優すりて代々後一品をまうでく　圃
名古屋の秋の月見　裁乃手子　爲
かけたる紅葉は松のあしくに　可
秋をめしけり宵の月蝕　圃
お志ゝのほ之風は身に冷く　邦
男らしき身にも這まはる児　可
ありとても寺院家の思ひ出て　里圃
夜も小雪まじりうぐひすの鳴　乙刕
雨隠れてめつさに出る乃自ひ起て　沾
縄くゝりけし家ゆめのたちり　里
墻本に月かゝりて出さるゝ　刕
茶店やりより八重桜みれ　沾

芭蕉

苫枕誠をもつて人をかしけきの雪　殖處
船に焼火をへりて雲の葉　如行
又うへし布綱干せる家見えて　野水
物むけ縁く男乃中ゆく　越人
きのふまく扇を月の海代碑　爲寸
葛くゝとあらる火の夜　桃筆
帷子に鈴羽織も嫁めまて　蕉
合羽糠くせき田屋と立つ　慶
神主も常は大き烏帽子着く　刂
墻うへておく薮の下刈　寸
早やくと還湯の流に露通て　人
後屋ゆ出れ会佛　彡
志のひへるゝを吹落て姥に嘆れ　刂
浮名志れつる月のかしらき　人
若き夜に浮る眉代ぞさるゝに　寸
人すたらかく来ぬとある男　刂
窓の竹に埃子精衣を敷にする　寸
きのふまく桃を植る幕串　處

こなたかなたの熱もあつく
かちゝにおちんとひきくかく

下谷保生千歳の御祭り　灯

あさつき啖ふ人の臭さよ　乍

ころくと一藤ついて目の覚め　人

堂もる雨の鐘通りけり　灯

こゝろ涼しく出番楽の薬のまし　乃

荻の黒尾さしみのむかしの交　亰

布衣破き頭巾乃梅乃風　行

松しろの月松浦乃月　人

ふつゝかして家乃名字を忘けり　虚

妻戸叩く逢く隔つ男　萁

泣くてなまけれ帯の羅布都　水

あをし泣めの小袖の刺ゞまま　灯

世の中代筆を豪杜撰し気　乍

猪やらさ日をまちひ遊びく　虚

旅衣尾張の風は十歳か　蕉

富士画に猿くまぎろ言葉多　乃

猿に堂の四草おもし　灯

くけ衣しを柳流体し　人

扇有

夕鳥や墓に鳩とる夜寒哉

西日とらへく萩乃下刈　翁

ちらくと浴衣に鯉のつり竿て　惟然

馬のはづかみ手人まつ風　似

一盃代銭々酒買ふ暮の月　翁

程よ穂蓼ある庵の垣る哉　珍

松茸も小僧をすねむ雫ひ候　似

ほそゆる牛も人をかけ声く　翁

墓に法の記を新盛の口明て　珍

旅乃詫を女房離しおく　似

おひとり川に出ても念仏唱れ　翁

今の世に何落しみ為し　珍

めなくと川より書き上る乃花　似

茶は味ゐる代里乃稲　翁

月影に落訓の流き念つりて　珍

雲乃奥ある初秋の晩鐘　似

おの雪ふ鳴ぬ鳥の声飛ら　翁

出来ず西次草程の穴　珍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

壽の宮十方暮れ時はいと
淋しう物むつかしく悩む時を日
暮れの
先生を待ち
むつかしう
九月
祝ひも毎月
赤ゐ
足場よき月の細道一筋
康長の夢の
念仏
四月十日
教法を
前のことのと
男子
康久を
切るみも
うち

坂
恵
牛
紫
恵
坂
牛
恵
子
良
牛
坂
紫
坂
牛
子
良

酉月

芋焼や
峯と
織おり
打つ
月
沒
家
板の
あさり
塀は
日暮は
和田秋
柳
今
出れと
松
屋は
彼
竹焼
卯月
結
延
裏
裏
裏

書ゐ八春まて寄ると紫れく　蓋
日記法ま　ま　一帖の紙　紫
孫庵や　ちな　年の永伯　子
名ゐ　とり　安藝の廣島　蓋
春伝八月　初　伯母　紫
元来　酒乃勇　子
焼　慶　鱧　蓋
巻　芸　廣　子
寄　賀八　仮法　子
要　名　辰の市　蓋
能　時　廣　紫
紫　蓋　子
杜　ハ　牧　子
湖　む　漆　紫
蒔　月の　蓋
信乃　ま　子
打　子　紫
の　松　蓋
子

左柳舎

よく咲け九日を過て一者の菊　左柳
ふるき名川　月の家　老柳
野島ちの　の鶯の時　おく　路通
ちこ　と　山乃　文鳥
酒屋の　せ　傳子　蛾人
なほ　ま　文を　如行
足の裏　て　神を　前口
二人の　書　ま　式部
乃　を　ぬ　木因
兎角　て　ひ　斜筋
子　乃　式　柳
絶　ま　ま　蓋
蛍　な　見　子
月　て　中　口
暁　は　乃　西
一　あ　る　人
塩　ま　む　春の野

[illegible]
村[illegible]きく[illegible]御の[illegible]
二代上[illegible]の[illegible]なるうりう
[illegible]れ[illegible]るほとむつ[illegible]
[illegible]帽子かくらぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

山高路の称名を見るべし　文考

舟の自由、東日よりゆく　尤次

月夜にて和歌浦を出る際　巴丈

なりもきかの風を渡こむ　川

三転の云伝ふるる秋の風　悦考

枝をとゝのへくいつもすむ

夜遠き雲くに笠なる山もかし　次考

金鐘の夜代　弾ようて麻　丈

和歌浦下戸いちこの極楽　川

重ふり傍の先なる雨まさ　後

金剛く一世の時のそれ盛　考

清しよ水風の無ひすること　次

そるの野や風ふるる白川原　丈

三傷つ寺くに百代移者　川

そるくよ男安も重そうへ　後

よ名く西先そう姫　考

有明よ百度もうる秋の夜　次

夏そと自の　桃乃月川茸　丈

其ひとひ桃すう山しの仙台

土風いく風乃奇ふ高雪　白雪

松くく嘗市ふ香代　桃葉

そやの望くの吟くうるも　芦厂

後雅乃いるを夢の月　文考

望花よ乃くくを　以之

庵西ひ集を押く　扇車

仰くひ風に桑多てる　清水

いるを詩の夢川を　桃先

蔵いるめの作山よ　桃後

月よ月三そうを吟く　桃親

文古乃はもを　雪丸

花ふ寺いるを切の雨　雪

頭やみまてる　水月代　蓋

桃乃遠ふく　海る義有

寺そうの今そ後立　考

茨西ようを化寒のそうた　之

二月乃雛のそ川つ中の　先

おりしらき雪あけの日のこけ露
小舟さす翁も袖もうるる浦
黒崎乃岸より高の吟連く
雨よりはしめ山乃西乃岸へ
竜化ら例よりあまり目を喜き
松蔭乃塔ハ蔦ハ青る 蔦ふる
雑子笛を首ふるる 物の供
雪降 さんくくきりみて明 俳諸
にこ〳〵と生絶涅槃の姿にて 芳言
深も青〳〵を 後多ひ久
やはらかに青る ふれ春の自 丸
沒すれ乃 作を 蕉
あれ家いまの新 之
る法乃むしる 了
千鳥の遠ゆる一〳〵 先
新乃さんく 思き小 雪
吟毎よ師匠の作を 車
むしをさんく肥る 松

初茸やせく自牧神の形の雲 芭蕉
きさすく紀ふ河を谷川 盛水
咲ふ乃居村の茅地 史邦
ちしこむ月ハ蓋 牛語
塩つ寄く 蘭の蓋 嵐蓼
拾くことはそる草代 蕉
主家ハ土拾 沖 名月 あ
風訪乃家 河ふ 蕉
弁当代草を 石の上 邦
至ちしき ふる 芳
四つ打代蘭 ハ 蓼
出ちて 蕉
月蓋く西の 蕉 あ
ま稲乃 ほめく刈 邦
絢むよ文紀 あ 蕉
春 春を 邦
蓋の象と見 芳
細ふ弁 ほの ふ 蕉

おもかく茶入抑き梅つたき　たゝ成
後世伝のたゝ川　雪の者　彫堂
月よあぬつすり貴を引くく　普子
羽織乃よさよりの俊徳ふ　黄山
夕月代及こきけるる　掬蘭
出代るく秋そせるき　銀杏
あそよ茶　絡ハひらゆる　椿の寺　堂
扇くく年一年ゆ　雪るきう親　晋
足りうう菓種ハ動く　苔子の色　杏
事を書く　巴を酒涙の学寮　義
下紙の反古ハてくすく　山
つをさい猫乃分をひめ　鄙
むつ〻や穂よ〻〻也如の新　普
硯法度と高や　セう流　堂
夜の西宮代方うそなくすん　古
三すり乃ゆとをうるむ春　山
ま一つと嘘をそやそ　紅の月　晋
茶と　茶しそよをたつる　彼　堂

秀俊よた敵ゆ拾る　猿芝居　業
のこ口なすをを　伊冊　詰　白　ゆ
暁蛸ゆ学良ゑ代　れを代表　かん　慈
ゆ能仏原ハ河けん　物役　邦
見をゝ〻きこ也仏　ゆ敬〻赤の星　義
嫁へをるうそや　唱子川　慈
袖ゆ〻を　深　雄子代　茶てく　業
月を俺〻き面　油代　稲　か
仲赤き百ゑれの　門ゆく　義
公事ハ有る赤ハ　赤ハの　慈
傘をひらゆまへ　方　邦
見る月をあつ〻　俊　面　邦
出庶くと又ハ原庶の　一年の日　原
千年ゆきる　義　義
ゆ織乃原ふ〻〻　を云つう　水
鼓義とうきこむ　板義の上　慈
人つ〻も利用の　玉さう　原
彦ゆ男ゆう雑子代　勢ひ　義

是形ら和尚もあと秋の竜
ちくてうあを柳る名戸梶
山雪代つる〻〻〻

川舟酒をよそうを賣みな
塔より宝ひとく清ゆる白雪
雪ふる山を爭はくもりぬ
第時乃面のめ宝く安藤
世況れ上京の京乃藤
腰よ越えた海の音響
青青に西をの形乃音さく
ちく〳〵多代つうめう
朝の月新〳〵たこと五六
分ふなく〳〵よ音を志うる
蓮ちる新〳〵ろけつく俳氣
かけんをせ〳〵る油漬乃捕
新春〳〵る吉代下海音入
何をけ〳〵く竹の髮 孫
吸物くは安の宝を面せる
把後乃五場を又ゆて来い
幾ロク武見代車さそ小く
日ノ西よなを〳〵春の面

紀行 考 仝 蒙 作 事 蒙 紀 蒙 紀 紀

紀〳〵とあるあや言れる 芭蕉
言葉ほうたく〳〵ゆつくりの新 安世
俳を打〳〵毋紀名紀よ入て 支考
るれ言く家と他るそう升 空芽
月の新花の花る言て来る 土就
大うむ〳〵めよと掃へく 丹楚
かうたをすほうて成る杖の芽 芳
言うよはる人れちゆて 蒙
さうそうとおとそうて連と結 世
花の咲るやうもむ汚きて 考
て半よんとけるわるきて 楚
古句の風乃うほと吹く 芽
新服る むすこの成る孫乃上 蒙
そろ〳〵江戸乃子訓のる 絡通
よひうて紀〳〵丹れ出きた、
ちたる半よ枝節うけく
月新と紀の言よかこまう
あら言葉や猫けそゆく

元禄七年六月廿一日　大津西教寺にて　百歳子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春乃ことく孫まで奇をを奏をう
聖華蕭代屋風は画く獅子
画彩は打なしたる庫園
殿高乃梅馬風は
はしくと義乃者代昌なう
祥う雀の敷しうて 柱く
常賓の市代梅まる酒買えす
明自代隣隣の月も佳しう
稲まあは清なしふ深しま
家は清さとやうるの紋
子作当う作る家を多ひく
千京代常ようみゆる椿 札
物家は下知の色侍を加ふけ
幕をと忘はき八落笑をれ
結乃うしみを家のこ色形まや
姻寿あとよを孫る 傾光
うつ玉乃対協やあり
鏡う侍歩る 草 一房

村 類 意 斗 之 村 市 之 村 百 蕪 之 紙 意 之 市 百 村

元禄七甲寅廿一日
本節句

秋ちきの紅の家や 四季中
ちとうう ふける 松よの家 本節
月おるあ月の出 新酒 惟然
起ちと 海ようるし 蟹 支考
俳こうるの雪みの一寸
ちのひしみて 秋 西上出る 蕪
夕食とくく 儒の猫を 考
何の 鳥とを 乃 大きち 紙
有くく 吐の 喧嘩 蕪
うちく 雪乃ちる しう 椿 紙
仏壇乃 猫は 四の 節
探くう乃 家 秋を 考
八朝の 猫ハそこ 仕 節
西 兵 ハ地 早 あ 代 雪 不 蕪
扶 家 する 醫 者 代 芋 竜 考
結 那く 細 縄 あ の 恒 紙
足 袋 服く 干 竜 の 恒 考 節

年隔ちいさきやかに作りて
隔ヒ多りをとこ子のつ
幼姫の上より白き頭巾
平蒔とそ雲母を雨とふるやうに
弁の根をゆく〳〵あ
ちらく〳〵と京人の根相を尋ね遠
姫とむとそ思ひにをこく
寄い寄さむてこそ
重りもとりのさうし
繁陰つく寄る日の月夜
あり十さうり榜を
屋俗は中稲仕ふく〳〵
桶も多〳〵ひもあ
投あをつ〳〵く猫の
そうをのをかる
寄〳〵寄を摘そ
ひく〳〵乃肥る赤出け
道節紗道考道節紗道考道紗道考道紗道

伊勢氏出申春奥

種幸や恋のけうを費歩
乃雄ふるけを阿
酒好の加〳〵も
ぬきくふき革
有明の七り部
ひさこけれを
秋風は恋の
小俺のくをに
屋もとくと矢
多賀の枝
手枕の男
人よれ
萱草の
秋〳〵
月ふく
こほてき
菊の志
夜七
伊勢氏出申春奥

ま多波
乃雄ふるなり
ま残
土芳
良品
残
道
芳
残
芳
道
残
芳
道
残
芳
不
芳
道
残

猫の目は六つ時なれば四つ過く
芳
四日はかまもひの織部菊を切
不
加つ的と病人を八かまめさ
跡
毎晩くる。髪ゆひ
遠
やうくるる紺屋の彦を見て
不
多くの宮女にあちこちひまを
芳
けさ人丈ようとも考うるを
遠
まゝ元級のあるなるう多利
跡
釣又なさゝひの為き給過
芳
ゝと気なる。浮て京の京
不
田蘭は稲をあゝ月清く
跡
風ひえ来れば牛のるは孫
遠
家ゝ人数のさきあり神もな
不
右なるとの人は何よ成へ多
芳
祇園や吟新さくかい笑め
遠
筆をおくを鳥明あす
跡
右ゝと一重は家よ持むひ
芳
長宗さき屋は左を敷ありう
不

生部屋より奴の寄なつ一秋の風
ゝを成
卜廊の上り蒲萄棚清水 洒堂
酒を注ぐ事あゝ月さて 史邦
あゝ茶四五本出なるうう 丈艸
美作より屋敷のさきあゝ家 玄来
蓮は葉葉の為かゝ家は 望竜
夜掛もまゝあゝ蛍東さ 正秀
楼門の蓮を作むそるさ 遠
体を自も雇ひの魚よりく 筆
海役うきは備ゝかを筆 邦
生能する裏お砂をうう 艸
いつも家り川藪の下校 来
秋ゝ月く又一きう苏汁 竜
唐絵毎ゝ俳堂月 秀
分別は命をうゝ筆の流 遠
病うゝ作ゝく浮世さう多 蕉
義好なゝ孫をうゝ山の冬 邦
ちゝけふまゝ寄ゝ来そゝうき 艸

人心常陸乃国ハ高く久敷
産月すても雑きおもの
うきをとゝ弁まゝ得る情な
紅買者の帰ら きめ く
碓氷に識除こ 由 紅葉酒
横咲ハ むう 注 紅
仲むく よ 藤 所 (イニカヘル)
明石乃浦の 太敷 歩わと
大うさハ 抵 有る 西
カ ゆ 仏をめ 碑 ひ な 茶
ゆるまく 世乃中の 青 所 元
薮 く き ぬ 思 海乃月
匂ひの ら く し 祇 園
すしも 籠 乃 子 蘭 おひ 立
多よ 初 一 西 見 多 ふ 咲 そ う さ
油 物 や め 竜 こ 痩 く う
雪の 花 よ 藤 し と る る て
や 仏 な ハ 風 の る を け て そ 次 軌 筆

本 寺 秀 苗 寺 邦 仙 本 寺 秀 意 寺 秀 本 仙 邦 寺 意 秀 寺

いさよひ ひと り 分 関 の も ー め れ
稲 妻 乃 塩 を り ゆ る ひ し 船 泊 子
迫 る 多 語 注 留 ち を 詰 ま る 盛 波
か ま の そ ろ ひ ー 第 乃 拾 ひ 依 く
乃 返 せ と 屋 根 る 日 乃 照 村 時 る
き 葉 者 る 秀 ま 西 今 め ふ り 子 益
家 陸 る の な き 女 房 の 点 き あ
板 ひ う ぬ ー を 山 卧 の 髪 益
若 皇 る ま ち の て 草 鞋 奉 り 子
ひ ー ま あ く 第 ま 冬 を 依
鶏 乃 巣 る 赤 き 沢 の ら き ち り て 益
を 寺 と の 曲 海 ま き 紙 を 埼 子
板 乃 桜 を う ー 第 る 青 の 月 あ
硬 待 う 寺 ふ 後 の 屋 ふ 入 る 荒
独 (イ二反) 信 る る 始 を ま ー け る 子
恨 く 第 く や 乗 ー 答 の く 益
邪 う 十 日 も 産 ま 出 さ う 第 良
孔 を る く う る 独 活 の ゆ て 和

手紙を御師のトノ今朝て
名ほし　かゝれて死もかゝて　尺
拾はゝめおたを右袋を　道
よりそは祈る　良の振袋　子
夏川よ夏の衣を踏ちく　源兼
夏紙乃屋　乃月を見厚　子
家恋ハ女の芳を積主　道
屋を大事よそけり　紫
眉作る弱よかし　あかみ　子
大原乃細屋墨ふ　名　道
数多く数ふ牛も　冨考し　紫
色代みるとこの　ゝを　子
初時面白の松をつむ　道
老り草鞋乃川ぬけ　紫
約すきとの新の配を　子
爭おし　猪乃　みち　道
書草ハ数ふ　恋き　の山　紫
春風吹て　谷代　細布　子
イ三月

元禄四年

安くと出くいさよふ月の雲　成秀
舟を寄くく岳れ　絡通
いのきて咲も桜ハ　太仲
掘こそけ　る寺代せ　惟秀
雲ろくと　ハ雲る　碑　雅睡
埋れ　を　ゆ　ち乃　正則
家鶏よ　を　訓る　鶏乃　むき　雙江
石代　多岳の出　を　む　勝重
温室の　を　尺　けて　蘭ひ　葦皆
翁仏　日　時　面　兎苓
松　ハ　の　陰　の　ぬ　正秀
陰　と　陽　代　古　弁　則
月新　こ　な　雲　る　白の上　童氏
只ち　く　と　ま　く　る　咲　重古
微こ　き　鶏　り　鶏　を　ゝ　道
髪乃　公　髪　を　ま　ま　ゝ　仲
年く　代　る　ま　ひ　友の　敬　則
軌る　車　と　セ　る　乃　日

書は菓乃下ハ茂と呼おそ
呼くるものゆゑ夢なり　正幸
なるものゆゑみなそ門ハをさく　江
ゆくてのゆゑ行帰るく者ハ　苓
行嘆き人ハ留ゝ住を重なき　雨
ちるく去ちてし煙霞なき　紛
風やうて流るゝ住の波しゝ　秀
只一ほと飛む源をの　亞
ちゝくハ去き杉の葉おを　紫蒙
月石をあくるゝ飛く旅川　州
秋風ゆ細乃岩くゝ石代竈　苓
西寺ゐる稼の花さしゝき　臙
庁編るゝ云ゝ云ゝ接おゝ　亞
為ゆゑ力のそるかをゝ　重成
長橋ゆ銀かゝりゝと井　柳沉
ほゝゝ見ゝ呼く釈ハ吹ゝ　為
職人の思あゝハ去る者の法　法五
南ありてうめゝむ為　香

世界ハ山を四面めぐこゝ　女考
まゝゝく細く今ある岸竈　清水
ゆゝを内ハ今ある一枝の藤を　白雪
彼ゝゝ表也　乃を　雪丸
俺くゝゝ今ハ今ある月　芦ノ
ある景さの門乃外の　柳陰
小地法のゆゑ並ある蒔き　扇車
絶ゝの去乃ゆゑ絶ぬゝの為く　以之
新ゝ乃橋ゆゑゝゝを　桃先
代絶を移ゝ九世乃　観音　桃後
俺人ゆゆくほとゝを小　神楚　邑義
あゝ乃ゝゝ今ゝ花の姫糸　考
無のゆゑ知を行く呼て　隅
切ゝく付ゝある竈の三日月　考
宴初る囲炉裏善法ゝゝ　丸
詰乃竈ハ形ゝさハゝ　車
花子ゝく極ハ二枝ゝゆゑ　之
まゝとゝゆハ竈の白幕　柳紀

風しくと降るよう雪かとみ
襲るまで乃ゝ先る 味噌の曲物
まを出と臺よ第まとゝを乃
あゝ一の松をと早枳仕事
海苔こゝ傾乃あれ志ゆを
秘風出こゝ義教乃墓
そを畑のあき物すを反生て
小清らのあくき衣くの月
さ見くゝ代意八るカ貝忘貝
乞食と成くゝ夫婦かゝふ
さゝむる脊中の雪と行搗ひ
きゝる法を探出出こゝり
志ふ山一つあ寺尺みを峠乃
荷と夏方のゝ半八藤ころふ
先さくと日向の方代京壁
やゝよの糸うゝ山る石棒
忘仏すめ四る妹の多
又幾度乃保生貝お度

あ 道
、 雪
後 先
紀 丸
秀 道
屑 之
車 後
雪 あ
先 備

清みくと第市を使る板寒
仆乃を用代を初あゝ吹 惟然
約月ふ鶴生くく尾をみて 土芳
出代出る 徒豆腐壹文きま 雪芝
大八乃亨第する 細小師猿雑
師その新よ編笠も長代 芭蕉
痩なうゝあ他平ゝく川表 阜袋
壁中ゝ半を徳おとき やる 九節
嫁入代第ゝ旅やなつ陸八ゝ
故と茶屋を飾てあく 芝翠
一ゝ一ゝ雪ゝ立る自家家 紙雑
新酒行ゝ ヤ乃ゝ代秋 道
大島代ゝて四ゝも細ゝ老 袋雑
芳麦軒ゝと方ゝ怪ゝ代裾 道芳
立なゝゝ文ゝて亀屋の溜 雑
紙紙ゝて紙毋の注新
ゝん乃ゝ花のゝ本陰乃一ゝ
何ゝゝゝ北の方風

旅篭屋よき茶屋などかたとなりしひのけうなる人と茶屋俺　袋
夜枕乃九月毋あしも霊霞　蕉
毋よく　芝屋を　庭風呂の漏　芝
持能乃一百所くどりうの孫　望
何房巻くそみなほうの孫　芳
青代口へ移する　庭巻市　蕉
菓の吾代のぬちなる小茶雑　紡
間うあるを又見いくるる西のうやう　雑
やもかをしー家ちる遊坂の板　蕉
有明よりしー面ちて　言と望　袋
霧しー家ちる代　痛やくう　蕉
引あて　蜀を市　芳
独たおうちとて　歪熟のつ　芳
明くくと幾世蜀よ　なる貝の売　芝
明くくと幾世蜀よ　なる貝の売　雑
ちへくくと茶のほう　つく的間　紡
板よりしーち土ちの　高　翠
　　袋

元禄七年七月廿八日

猿維

ひきくくあへ海ゆく陸かな
重代のしーとある栗の穂　芭蕉
紅月新加る粥　酔月　配力
菓の物ち月暖　蘭の穀　望翠
かうう物をうち　雑ぬ　土芳
翁庫さうる袴ちるなう　卓袋
焼蕨をかサキ家るかやう　蕉
名ぬしーと地下と　立ちる刺　維
焼飯ハつてもの中のつめくて　翠
ぬりし給さんおぬ　芳
山ハあ菓の要　伴
沸の代西月を　苔蘚
紙指のこ雪の雪を　掘ぬし　力
走撲ち屋く云百代　維
山陰を山畑しー村の云と　撐　蕉
給ちもし彩乃輝の菓　袋
焚きしく菓京ゆく屋の色　芳
土ちはちを　代紙　蕉

坪刻の川際に石積あげく
日なさくるうち風やう今か
大名乃供の出さのそなさ
むらしの乃かの部屋乃
一体々代を拾く求め酒の粕
毎ひ乃ろこ可あ乃さる
ろの岩屋面立の板家く
鞦乃夢の概をとれん
弟本とおらめよせえく成る之
干かさひ〜のとなる三ケ月
彩色八御供を拾〜ひろ
出たく〜後ろ俵ひ武士
家ろて旅出る静なり
かた〜這のる罪の口のきを
耳たふをそろて極よ横〜書
切る乃ろきさ雇ハた
大姫とな饋ひあろ京の陰
年乃御ろ社きるむ二月

蘇 力 蕉 雄 力 蕉 芳 力 蕉 雄 蕉 雄 蕉 芳 雄 蕉 雄 蕉 蘇

芭蕉

ろの女 風竹 僧川 女考 惟然 西堂 舎羅 何中 蕉 女 竹 川 考 秀 生 蕉 中

ろ乃菓乃月小ろ京乃屋敷
和義少よあと信と約月
吟と 朝の庁ろを拾ひく
何ろと出ろ乃ハ考乃
小四郎に出た太の路ハ蜂ろ
敷をとろ川く玉くの旅
あるる神よ紙と南ろて乃
油さく〜ま要新の公代
恒誠ま乃と〜ふの礼て出
普法乃ろろハ小屋て出を奥
ろ〜ぬの極る 風のさめすま
酒買ろく信 ま稲のすり初
さ乃く〜と月の会ろる板の変
板法先ひ方 ろる町稲の秋
ろ乃ま〜演ろ西る者鶏
彼岸乃ぬくさこ川ろさる
書芦ハ蹴ろを川家長の出
ろろ〜ぬの一歩ろ〜考

[illegible]と橋よなく稀に這入られ
[illegible]
あまくと糸[illegible]紀童の芝
雪乃匹[illegible]れわりあるに
紫賣之隅乃[illegible]連[illegible]セ
法蓋[illegible]雨れちむく
上下乃橋の[illegible]る川の高
く田の中を[illegible]の[illegible]さつく
小[illegible]不所を[illegible]
稻の仕[illegible]乃[illegible]る第一樣
月数と呼く師走の初の長さ
枝一本[illegible]乃のひきち
堅う[illegible]の夫も[illegible]
老乃ちう[illegible]不[illegible]
備ちさる[illegible]乃あるこの張さ
[illegible]ぬ[illegible]
田の水乃[illegible]
柳のさ[illegible]

川 書 女 考 川 亟 女 書 行 中 中 亟 行 書 女 考 書 紗

元禄二年七月廿四日[illegible]

翁

ぬ[illegible]
[illegible]
月[illegible]
于ぬ[illegible]
松風[illegible]
[illegible]
月[illegible]
下[illegible]
[illegible]
[illegible]

良　校　生　翁　良　校　生　翁　良　校　生　翁　良　校　生

甲い竜の中かかるものの
遊刹の沾とかくて秋のれ
月ま記外九合の楽
ぞ袁ふ袁をうまるさ
翠簾二人のかうるおもし
れてあ柳しうるれ
汀をを遠ま沙るれ
同九の門うるおこのうつく
鄭ぬるる都をうつけく
ぞ生い孫文君の是帝文
紙うを待いやれるうもれ
ちつ義ハ方を沙る時なれや
酒よいうある宿の山吹

翁　校　良　生　翁　校　良　生　翁　良　校　生

思ひ立本雪や江月の横物　芭蕉

糸の杖つく岨の夜むき　東義

牛のくびの乳を呑日数深して　桂揖

かくるふしゝ海る竹のあさ柳　叩端

俤つも栗の絲〳〵細煙り　桐葉

ひとゝ〳〵をゝるる明の松　立山

落雷い淀のそ寝紙衾て　苔翁

狩欲の俤よ旬義を点りて　閑水

くれ紙は涙をつむ女わり　揖

ゆゝけの布ふ上の袍くる　葉

雷うつ乗まの星戸は高さて　水

よもやる車のきしぶくり

楊〳〵を家ゝ星やをん星の雷　如行

盥さもむく　風欲明

有明は跡ゝ城を前動　義

家ふ放ゝ庵の砂原　桐葉

小性門は弱引むみ所る　行

椎乃古殺と傷ゝ杉之人　苔

いちこ雲山ゝ村の面陰く　柴

老多ゝ　反乃蕾　苔

お喰ゝ壹藤ゝ地ゝ　切

はゝ弁車函一つ　苔

樫竜ゝ摘る山の卅　系

伊ゝれし　葉人乃百　苔

接作る家も供ゝ　切

三日月神ゝ　苔白知ゝ

稲を八ゝ　動川ゝ　苔

吳淡侍乃志ゝ　切

伊即信ふ　熊白髪と探ゝ　苔

椿ゝ常登乃百年の竹　苔

ゝ

生命をうしなひ[illegible]ぬる迄嵐ふ
ほとゝきす[illegible]の家菊の花　盛水
代安乃仮屋[illegible]月を見て　蕉
[illegible]風呂桶乃稲を[illegible]　丶
郡の糟を拵[illegible]　あ
きつゝも拵へ[illegible]　丶
秋の時雨やう[illegible]　蕉
庵安静なる能のはす[illegible]　○
[illegible]乃[illegible]　蕉
[illegible]　丶
麻[illegible]　○
中稍の[illegible]　蕉
何所もかもまて[illegible]　あ
つく[illegible]　杉風
[illegible]　あ
[illegible]　風
[illegible]　あ
[illegible]　風
[illegible]　水

十二月九日一井亭興行之歌仙

[illegible]ひ扉[illegible]一宿八郎左の名月哉　一井
[illegible]　積雪雪　我人
[illegible]　蕉雄
[illegible]　昌碧
[illegible]　苔兮
[illegible]　楚竹
[illegible]　東鯉
[illegible]　蕉
[illegible]　井
[illegible]　人
[illegible]　碧
[illegible]　兮
[illegible]　竹
[illegible]　睦
[illegible]　蕉
[illegible]　人
[illegible]　兮
[illegible]　碧

文政元年　体歌

[illegible]

一の仕事ハ[illegible]

垣中の[illegible]

[illegible]

山崖竜を　挑る小坊主　文多　式部

秋風の[illegible]　庵抑

[illegible]　越風　行

[illegible]の縁　孫香

会仏乃[illegible]の[illegible]

別[illegible]　千川

おもひ[illegible]　義

[illegible]の裏ハ[illegible]　歌

米蒔[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]ハ　[illegible]　[illegible]

[illegible]月乃[illegible]　[illegible]　雪

初[illegible]の[illegible]　義

月利[illegible]　抑

[illegible]

吹上[illegible]　[illegible]　[illegible]　歌雪

[illegible]　[illegible]　[illegible]

七輝山を　[illegible]　月　義

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　義

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　義

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　雪

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　義

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　雪

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　義

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　雪

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　義

方乃うさを弁子のゐ[illegible]
和泉代の[illegible]桶乃名よれ　雪
紫垣乃吉き[illegible]古ハ破屋さう　蕉
清もすんうう推ハくろ　雪
[illegible]代名てつる秋の月　蕉
鬢切氣育の月をひっめく　雪
長いより西の影乃秋をひく　蕉
粥ゑ[illegible]ハ仲と嘗[illegible]　雪
山寺乃後ハ水仙桃　蕉
雪ゑ[illegible]　雪
やとうセんたの岸ハ新菰　蕉
前[illegible]ゑ　雪
口講及を先頭ハめ食のゆ　蕉
祢宜ゑ殺ゑ祢もうえけく　雪
玄黍乃絶を物ハおちめん　蕉
ひこいく中田霧深る夾　雪

右乃仲ゑ二句雪

夕照

帳玲乃壁を抱ゆる西日ゑ　沾荷
衝前ゑれ芦の穂代上　芭蕉
雲の和歌を隔る松とみて　蕉沾
皆ゑはさすする石乃雪　荷
八月代前他桐ゑ武をひろ　蕉
紫の名ゑ年をあやしとれ　沾
山ちゑを流のさ波ゑく　荷
苔ゑひ弄やと酒造るドし　蕉
夕雲月ゑよ[illegible]る鞠の寄　沾
白き地蝶の地を蔦紙を　荷
後ゑを擂の極ゑちひく　蕉
孔ゑ一髪とゑを[illegible]　沾
閑自家形ゑの敵ゑも出ず　荷
何を樊ゑよ清ゑ[illegible]ゑ　蕉
桂の月一の宮ゑ俗痛く　沾
浪つき初一裏のやふけ　荷
みゑゑ代已ゑ形ゑ昭ゑ新　蕉
四十雀ゑて月ゑ弄ゑ　雪

[illegible] 独子
[illegible] 月 色蓋
[illegible] 炭雪
[illegible] 其角
[illegible] 蓋
[illegible] 子
[illegible] 角
[illegible] 雪
[illegible] 子
[illegible] 蓋
[illegible] 雪
[illegible] 子
[illegible] 蓋
[illegible] 雪
[illegible] 子
[illegible] 蓋

[illegible] 酒子
[illegible] 千川
[illegible] 源紫
[illegible] 武蔵
[illegible] 子
[illegible] 蓋
[illegible] 川
[illegible] 蓋
[illegible] 子
[illegible] 紫
[illegible] 蓋
[illegible] 川
[illegible] 紫
[illegible] 子
[illegible] 川
[illegible] 蓋
[illegible] 蔵

元禄三庚午九月二日 [illegible]

堅屋よ塙 [illegible] 不知
山よりつゝし日を [illegible] 秋の雲 前口 翁
初月やすゝ川西宮をとつまん 如行
波の音すゝ [illegible] 左柳 [illegible]
[illegible] 秋の [illegible] 斜水 [illegible]
河の音よ [illegible] 知 翁
おのつゝ [illegible] 武士 [illegible]
[illegible] 知 翁
[illegible] 柳 翁
[illegible] 寿 水 [illegible]
[illegible] 知 [illegible]
[illegible] 風

みれおゝめ二人の七ふことをきの [illegible] 翁
[illegible] 袋あ
[illegible] 良
[illegible] 柳 [illegible]
[illegible] 茶 [illegible]
[illegible] 亀
[illegible] 友 [illegible]
[illegible] 沈竹
[illegible] 夕 [illegible]
[illegible] 秋
[illegible] 亀
[illegible] 良
[illegible] 柳
[illegible] 板
[illegible] 翁
[illegible] 亀
[illegible] 友
[illegible] 茶

懐紙寄乃あうふ面寄く
況をわとく良乃さくうき　丹
餐そ仏ハ函をあうゝなの　坂
毛をけうそ苔よちくさき　業
男仏女姉さすゝとち兼く　色
なみゝ穴楠よ無常をほと　翁
老ぬまそ計乃尊ものそなる　又
ゝ仏ゝ俺のちゝさそや　ゆ
物う屋ふ兼堅ゝ知ゝを寄　色
ぬ生ゝするさく椎さめ　京
甲斐伝院月をあゝそ河海　波
つゝゝ仏さきくのゐる初雛　土

右当仙よ六月三日

木枯よう考る日遅き八陽乳
毛をひく野ゝとのまる翁板　酒堂
御乳の中絵ゝ芙ゝ袴ゝく　義
ゝゝゝく八本辰ゝく乃　山商
梨の枝おゝ(イヽあゝセ)と解を芋の月　老拙
楠ふをこき革(イとえ)かゝのおく　大舟
秋風よ架ゝ(イとえ)ゆる寄の宿　千川
蘭のゐゝれ梁乃ゐ　義
六月の日も無ゝまの杭の木　考
ゝ敢乃八ハ為縄ゆるす　拙
袈裟牛をゝく供る浮世宗(イミを)　郁
無面乃鶏の墨る山陳　川
蓼をのこゝをるおよ氏篠の信　母
信よ豆乃地をゝこく秋　考
月代ゝふゝゝき里の離き際　川
ゝ縄ひゝをくる代順ゝる　角
豆八ゝきゝゝう云ゝ系盛　柳
更代ゝのゐゝ為ゐ　翁

佐川蕉菴

月ちりていくやそしの村雨
小雲のかゝる都の花山 爲
男鹿花巖のおもき方蕉く山筋
あるさの白ゝ海のあるる川 花抑
泊をくさ籠乃板やも一雪徑酒堂
襦ゆおしゝむ松ゝひの餐 海動
地生くあくさむ日ゝ雨 盛乃
友除ゝろゝ南ゝ乃花 川
蓋ゝ月ゝ雲ゆゝむ蕉蘭ゝ 爲
なゝゝゝゝゝゝゝゝ大酒嵐蕉 抑
言餘ハ寺窮驚ゆ歳ゆゝ 爲
乃風品ゝゝ言の除おし
蛙くさ蕉れ外ゝる走けと鶏 動
伺雲ゝやゝ乃あゝ乃ゝゆる(イニヘ) ゝ
伊豆乃海は海ゆ舟を漕今 川
ゝと夜乃法ゝ家ゝ宝し 爲

まゝ仙二白ゝゝ

文月や六日も昔ゝ代盤ゆハ盤を 芭蕉

霧をのきゝ京相乃一葉 花栗
物霧小食梦 烟 立かゝ 亜良
蛩の小舟をそセよる 孤 眠鴫
鳥啼むゝゝ小山を乃宝小ゝ 此竹
松乃乃ゝ梁 繕く供蹟 布叢
夕嵐座吹掛ゝ石のちを 右雪
ゝゝひれ来ゝ海ゝ 蕉
男ひゝけ魚を伺ゝ雪一 栗
きぬく代坂小郡も志ゝを 良
敢ゝの恨乃所の指ゝ 義年
蹟ゝ掛る家 ゝゝひ 蕉
物ゝ家小朝音ゝ月の夕蕉く 栗
康門ゝ来るゝの水ゝ代ゝ 雪
沾井ゝ来ゝ巧ゝむゝ 陽
ゝ月ゝ海ゝの山本の菴 栗
苔の沈芭伝ゝゝく生ゝゝ 年
蝶乃羽ゝゝむ懶 焔の新 雪

春雨の髪刈児うなみさま　蒹
香ハ色〳〵ま人〳〵け文　良
もゝそゝかてゝ赤てゝ

紫一所うく〳〵　右雪

星の宵師よ弱毫く蘭図
色ゝ　ゝ〳〵ゝ初刈乃茶　亀良
ゝ〳〵ゝ頃ゝ色〳〵布つゝ　亀蒹

叶古十句キレテシレス

秋風　てゝ　父ゝ　旅　立　蒹
かの　そゝ　錦ゝ　包拾ゝ　雪
絶て　徒　ゝ　思ゝ　乃古堂　右
秋梢く　小枝ゝ　茶ゝ　の色ゝ　也
西乃　あゝ　ゝ　ゝ　ゝ　衣
業ゝ　雪車ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　蒹
一む　ゝ　ゝ　人　訓ゝ　雪
金山や　俺て　小砂ゝ　拾ゝ　右
科のむ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　也

愛ゝ　百ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　蒹
人　宇　ゝ　さ　ゝ　ゝ　衣
松柏　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　雪
ゝ　射　ゝ　ゝ　ゝ　蒹
俳　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　右
徒古乃月山ゝ　合ゝ　也
檜皮ゝ　老ゝ　乃秋ゝ　蒹
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　雪
塩濱の海ゝ　平敦盛　也
法ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　右
かゝむき　地蔵ゝ　ゝ　良
孫麿ゝ　星乃　ゝ　ゝ
段ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　雪
俳諧ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　蒹
夏ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　良

情愛於東盛寺
金石年　宵五時

加賀少初菴にて　文化

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]日の雪なれ[illegible]る切目橋　イニ虎
おされよぬ[illegible]面の[illegible]　イ芳　芝
のの[illegible]　麦
第賛　[illegible]　イニ毛ケ赤名ニ　芳
[illegible]の[illegible]　虎
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　イニ[illegible]る[illegible]
すきの[illegible]　イニ[illegible]
むけ[illegible]　イニ[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]切[illegible]　[illegible]
[illegible]　イニ[illegible]の[illegible]　芳
[illegible]紙[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

元保六年　邑[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　野坂
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

唐詩を青代詩選とし門義
遠とする　子乃ちこれ居所　坡
裏合を招報のくる穀の岸　坡
坂乃ちを吟さ曼寒の板　坡
寒くの月小足種の遠うし　坡
法く酒の美　宗為乃方　坡
くくと格よ風のある者　坡
稲盗人代編を為や京　坡
乃見乃小親よふくの者公　坡
こはきく寒八とこ　ゆく　坡
法り刺るあさお斗八陳勝　坡
仕作くくとこ　韓方の客　坡
田張格る而を仁乃稲のあ来　坡
乙寒り来一　青の祢四　坡

右方仙よ四白ふく

水寒や小船のいとむ二股漕　湖風
柳を出る岸乃かり株　芭蕉
たくもるし切外乃前　法蓮
刀の柄くくくる　快氣　利生
食伝の服を平くり朝の月　風
豆寒く拭て釜乃底蓮　蓮
小構くを寒と其種乃れ如　楢陶
被一文くく下敷を信る乃　牛
蕗蕨乃色の黒きも時しく　蓮
糸の赤八夜の　数　徒　黄
乃るほくの子仕くり今くの　蓮
古き篇くこくろ鈍と弱ん　風
小さくて砂物を出り栗の砂　牛
釜を鳴く雑う冷八秋　楢
月氣の白も仏の基生之　蓮
盗人くる苦の　和二義家遠　蓮
皆掛の法かのかよ花の重　宗
乃くく跡金くり遠打　風

代乃春の人形しゝふ秋の月
廻乃曾の末乃かゝる葛　泥足
風乃心芳春のこゝ乃ふ春の雪　交考
ちいさき家を出く乃波　游力
乙鶴乃羽織を入て初うゝ　之乃
海く咲みの中なる後　辭　東庸
汗ばゝ男帝白の庭袋立梨子　酒重
塀乃乙後ゝ　春の梅ちる　嚔止
線多乙春の寄きの伽よ　惟約
意はば乃俳代球ゝ三月　嶌抑
兵乃面ゝ家ハ初めゝ　足
かくさき草ゝ　松風　爲
ゝゝと山田の稲ハ立ゝ　庸
地蔵乃埋原船ハ無しゝ　考
仕ゝなき身ハ茶ゝ　乃
極他乃紅の月と入こむ　紗
殺生ゝ蓑乃芝川吹立く　止
乃側見れき殿ゝ　書

白裝ぬく枝のゝ　春之徒
入日と共くゝ西岳乃月　之道
あゝ極乃鶴ゝ　秋の春　跡頃
刈株ゝ　ゝ　ゝ　

秋の夜をうち明し侍れば

月まちぬほどをうたん対よまく　車庸

西の山ふもとはるなる三ノ宮時雨　洒堂

ひゝらゝ鳥のなくに動くなり　嶽刀

男の名まんまや嘶くきぬ牲をか　風牛

小社を出てわくる大年　脩然

使やる所ときゝとゝ手枕すれ　支考

髪てゝ医者のえよもぎうり　角

拭ひて熱〳〵の柿きゝと　庸

きて拭へば弁当の桃　坐

紀よう思ふ者てあるかゝを　力

きゝたうなくいせちらんられまし　考

庶の事ぬ夜八宿ちんうの板　松

雨音は月の細きはすすち　庸

次ゝとて茅師をする結う塀　孝

七夜まてはよろたひ　力

ゑんせうの弓勢れ赤ぬむやうを　坐

小鮫ちゝ　今松　れ　所　芳

芭蕉

ちゝ柳よ蛙とを書窓の陰

一羽別ちて　千鳥　一群　義成

枯ちるよりなく　松のみとして　重長

田中乃乙　月乃　蕎麦　信之

月夜　巳ノ家　多　泥芹

秋風上家門の　ぬ　水薄

家の糸瓜をとゝ　桜の苦　風泉

雨ふ七ゝ　菓のきを絡　夕菊

藤戸千世　世情　苔翠

傾城ゆとかゝ　の　孤業

松江

松板よりひあきるみをれ　去来

時ちゝ　ろく　冴る　黄昏　許六

記ゝ　小収る　樹の子子風呂　芭蕉

なゝひ　四織　四人　のゝ　重吉

唐崎ハ踊の月まゝ[illegible]
[illegible]まて[illegible]
[illegible]細干[illegible]
[illegible]紅[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]

那本
六京
良邨

歌仙

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

如風
邑道
安信
重辰
自笑
知足

百仙

[illegible]
[illegible]

知足
邑道

百仙

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

越人
知足
道人

百仙

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

邑道
知足
野水

百仙

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

越人
知足
邑道
人
知足
邑道

あれたる宿やはな蛙　釜金　如行

枝は文るまで行さゆる夕道　荷兮

こゆるて指とさゝる湖の孫陸　野水

沙の中やきとらぬ湖も魚

ほたるて山ゝくもれる雲の月　芭蕉

清つく杖の陰るほくゝ　李

笑　野家　芭蕉

鶏家や雀よろこぶ麻の秋　知足

蕪ゝ尺四寸の笠の外や　安信

寺後を巡る編橋雲こめて

関吳楚よ月の曙　蕉

板垣のあるゝまする鳴の壺　足

ゝ川雲下ゝ長ゝ柳つ　信

いゝ小尺と続面ゝ　羽笠

稲ゝ穂ゝあゝ枯糸の松　荷兮

本賊刈下ゝ小髮と茶茶て　重五

桜ゝ笠ゝ雲ゝ雨ゝ　杜国

鶯よ捨　かはん　月毛海翁

ひゝゝ小橋をすゝ岐阜山　埜水

そ座の色ゝ出ゝ　芳春

野て入日ゝ色ゝ蕎麦　風渠

はゝく

水川ゝ土葉ゝ　芭蕉

春乃畑小湖のあ　仲と

初寅のそ市ゝ日和ゝ　一日間

約ゝ月乃ゝ　琴路

牛車　つゝ雲の色やゝ　空洞

茶半巣　旭里

雨晴ゝ雲乃ゝ咲く蓮角

山川ゝ乃ゝ　竿おつる蛙　等躬

夕食ゝ物ゝ雲月ゝく　芭蕉

秋来ゝゝと布ゝくゝく　重良

寺島元岱寺にて　其雪

嵯峨や海よ入る宮上川
月波中をなを波のうきぬ松　令道

黒雲の紅打ち雲の宮ゆく　不玉
禁を雨よ雨よ雨ふれ　定庵

梅さらの杉数仏ぬ仏ぬて市と称　等良
新さらまう浮る雲月仏大　任曉

ふ掃塵乃雲よ雲きき　意衣　扇風

羽黒にて　舎芝

つ雲なよ虹よ蟬なく山雲
松の雲雲をとくと三日月　芭蕉
鍬伸ひ雲東のうちをあつまて　不玉
沈て絵て言のあ　仏　等良

越後高田細川氏菴亭　其雪

茶煙よいつきの色と雲おて
藤乃雲れをあきうけ月　棟雪

炉雲雲の夕新と秋のいて雲て　東也
言　雲ぬ雲　言教の下　等良

小親ちを柳涼　其雪
わうかさち仲乃雲ち。
三日月のまさ雲月め秋の雲て中春
ぬそけと菊の乃綿つと男ろ雲江
服雲　羽織よ雲ち仲の雲わ枝
柏乃四方をめうち雲　牧青

芋生　丈仲

芋生　まう二葉よ雲ろ柳の実
畠乃雲ちかと雲　帯の雲　芭蕉
柏雲雲ひけうさ角振く　玄来
人の波ちう約蘭　仲
雲ぬよこ度蘭師の雲ん　乙別

元禄五年壬申芳しき

[illegible]

[illegible]　社

[illegible]　其角

元禄七甲戌年

第旦帳

[illegible]　其角

[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]　芭蕉

[illegible]　芭蕉

られて心寒しをるわさ　乙山

幻住庵を出て

越きるよ吋ちつ西すて　芭蕉

多仏や白き佛るめくさうつ

炭の大きくやきそれてほ　杉人

青丹月毋とぼみるりあまて　支考

はるゝと峰ちかくれ　湖水

初ゝ船ようたうあはひ　弁三

郊祭利てみちひより　桃林

猿の声いくもする雨られて　子晴

まゝ一ゝ蔵ちぬ　聖函

知らぬさ枝いれゝ目とほ　利雨

わすれぬやうよそれ　越人

蓼天となるもこ笠山　相楽改　化岩

吋宜ゝて次へ西をさうつさ　桃青

夢想之能譜　桃青

捧ゝ二月中旬の夢

乙卜のかゝみあまて　夷　杉風

西裏む古蓼ひろく活て　仙風

志ぬき蔵ゝ雪を乗ゆく　亀

雲ゝ月ゝのいい為の出代ゝ　惣代

笠乃戸ゝかゝ　肩板　杉風

上ゝ古有ぬの弟ゝあし　而已

五里乃翌と金箱の夷　凱笛

貞享四丁卯年　峯白

はゝ面ゝよ猛ゝ亮ん茅の菴

必焼乃巣ゝ使を清く人　芭蕉

れ風ゝそ行ゝる鶯を深ゝ　渓石

明月ハくゝき湯の山代　コ峰

猪ひゝろこ笠ゝ秋の夢　英角

著代俗目をゆゝ　トチ

後ゝを清いる風の音を　化宮

侍二つまね　えかしてうの帯　白
吉原の土堤よりの日代松ひかん　芭蕉
浅ゝ出しゝ　ゝ　ゝ　藤吉　石

業相と咲して特文まゝ法信を　芭蕉

武士の大相ゝきはれ　玄庵
一ゝ行ゝ木ゝゝれ　舟竹
分まゝ相ゝ紙を用ゝて　翁
大ゝゝゝゝゝ古里ゝ　庵
和の柴ゝすゝゝかゝて月の色
後とゝて　世ゝ　世

紙外

本ゝゝゝゝゝとゝて　月　翁
ゝゝ和日ゝ　月
行ゝまゝもむゝ　寸木
ゝゝ行ゝゝ月新涼　芭蕉
えひゝゝ那ゝ島の名を問て　荷兮
ゝほゝ　ゝ日ゝ文ゝ乗ゝ　越人

情と吟てうゝ除山ゝゝ　荷兮
蝉相ひゝ　探子れ　秋芳

芭蕉

残雪のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
板屋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
夕ゝれの月ゝて傘とゝてゝく　荻宇
馬ゝ西山と付てゆゝく　曽丞

山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
稲ゝれゝてゝれ八ゝ抜く
世中のゝゝを行社とゝく　芭蕉

夕ゝ智義を信ゝ古人
下ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ八十ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ毎ゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]合年[illegible]が橋の本の中
[illegible]て[illegible]ぬ[illegible]ぬ月[illegible]つ　芭蕉

[illegible]の[illegible]めまた[illegible]
八[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]　芭蕉

いさ[illegible]八[illegible]て[illegible]
[illegible]の[illegible]れ[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]
三十余年[illegible]
[illegible]山の[illegible]八月の[illegible]　支考
[illegible]て[illegible]　胡江

[illegible]れ[illegible]
[illegible]て[illegible]　路通

詩六

[illegible]

市[illegible]
酒の[illegible]
物[illegible]

[illegible]　芭蕉乃雪

[illegible]　梅抱月

[illegible]　杜国

[illegible]乃[illegible]
[illegible]や[illegible]
七夕[illegible]六日[illegible]　芭蕉

[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]
[illegible]
[illegible]　東岳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 口三圓ハ門ヶ母さよ中を
[illegible]人より或衣[illegible]
[illegible]
[illegible]ひて他号を改め古堂と云ふ

雛[illegible]て名を名のるなれ
[illegible]性乃さんこと[illegible]咲　洁圃
[illegible]ハひ[illegible]ふ戸となて　義
[illegible]

落葉早苗よ清く[illegible]　曾良
[illegible]　あや[illegible]　邑蕉
[illegible]川乃[illegible]　[illegible]

お辛崎

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]菊北隣とあるべしや　甘太根

[illegible]　竜ら　山　嵩の様　芭蕉

月と[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

うゝ山ゝ浮世の外の山さくら　細根太根　白雪

雪　清のこゝろ　[illegible]　[illegible]　[illegible]　玄来

人見乃[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

お手置

[illegible]　芭蕉

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　山店

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

世[illegible]仏[illegible][illegible]成の白[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

世[illegible]仏[illegible]成の白[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　

昼つゝ夢かむ大の森迄て　晩仁

百年や杉の木めなるよいろゝ　其角

幕を杖ゝわらゝ山公家信化

下ゝいゝゝ雛の餅ゝて去来

湖水ゝ見りゝ吐言の音　芭蕉

信濃まつ雪てい巧　取人　文角

分ゝゝ友うゝゝ文ゝゝて　仲六

春雨ゝ晴ゝ雲ゝ　其角

ゝゝゝゝゆゝかけゝゝの入

出代の茶和吉年ゝ　ゝゝを

灯のゝむゝ女ゝ友ゝ名ゝ冷まゝ　芭蕉

香ゝゝゝ　其角

いゝゝれゝゝとゝゝ月ゝて　嵐雪

枯枝ゝ鳥ゝ秋の暮　芭蕉

蝉ゝゝ声ゝ里素堂　嵐山

師の墓むゝ拾ゝ　乃楽四十一　芭蕉

ゝゝゝ　知足

夏草ゝ東海ゝ三日

笠ゝゝ　芭蕉

芭蕉堂ゝ雖ゝ　李下

月ゝゝ酒乃ゝ食　芭蕉

古池や蛙ゝむ　芭蕉

芦ゝ葉ゝ乃巣　其角

宿ゝゝ　雲桜

ゝゝ乃破笠　芭蕉

雅言

新しきはつ物の長の家
第の房より初ふる雪 芭蕉

ふるさとに於ては
らんあやく雪よりは秋の月
是六初月の文章なり 本因

秋の月いとしく
萩ちる庭まらう藤ふまらう 芭蕉

二月廿日
のとくなしよ
笠とやうこと 如舟

やつ〳〵ふ毎やよこと
田植こと毎うり 蕉乃紀記 芭蕉

三月の月まよう
松島月詣の俳別 春作

月雪とあの毎ものこと
旺のうう〳〵ふ 今宵 芭蕉

二月久角大雪ふる

蔵ふるやたくの宿のほとゝぎす
月の月とのそく 芭蕉
物ものあのさ〳〵さ別れ
つ〳〵ふく雪よりあひやや 北枝
於蝶とゝなる秋の菜虫
多孫ハさひしき花よ一すゝめ 芭蕉
花の咲ものなる月の翁
秋ちり 蝶の月雪 芭蕉 勝延
時雨やあるて
情なき蝶とゝ 芭蕉 その女
ちる雨〳〵花ちやみの田植家
笠あ〳〵毎名ん不殺のさゝれ 芭蕉 已百

[illegible]　惟然

[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]ほ[illegible]る[illegible]れよみ[illegible]　木因

[illegible]つ[illegible]て[illegible]も[illegible]う　芭蕉

[illegible]　春川

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]　芭蕉

[illegible]　[illegible]

山中紹いさしんを見る日

雪芝

[illegible]や雨を[illegible]の[illegible]のこゑ
[illegible]を[illegible]ぬ松むし　芭蕉

笠寺やの[illegible]雲と寄の雨
[illegible]露と[illegible]の[illegible]　知足

芭蕉

[illegible]の[illegible]
[illegible]

芭蕉

[illegible]て起例[illegible]
[illegible]

芭蕉

[illegible]
[illegible]

[illegible]や[illegible]
[illegible]　起例

[illegible]

[illegible]
[illegible]　二つる一つ秋ゆ

如行の旧芳を[illegible]時加行
[illegible]
古人[illegible]
[illegible]　翁

[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]　芭蕉

[illegible]て[illegible]
[illegible]れ　大　松　桐葉

[illegible]の[illegible]へ[illegible]
[illegible]れ　桐葉
[illegible]　芭蕉

[illegible]居[illegible]
[illegible]　石井
[illegible]　翁

猫のあるく
人もなき中をと出て
源氏の日数ふる猫を作り、
絶つくづくと絶しし古寺
旭さす小松の雪の陰あらく、
村の出産のうち第一番の
嫁とりは女をうして猫とあり、
暖かな陽の菜畑のいろけ
ちらしに花のくる蝶を菜畑、
地の上名ばかりの花の
蝶のこれ中うきくに初鶯、

佐々とこ中と市のあさ久
大和へ八百八久ものを用足、
屋敷の寄合かるる秘立
きれいなる庭八橋の趣内に、
弁慶の家山つの生来
大振と細作よなりて秘密、
庭ようるを大あてるたそのル
う孤女居を玉乃あひさの子孫、
枯るあるみるる髪の口伝さ
踏垂佐久ものて其信の位、
乗山やあるしの山や山や
ちるよる碎てかるれ作、
雲乃弓八まる山の月寄く

芋坂通り　小男鹿の角、

笠屋の焼しく[illegible]ふ川より
及うえ多れ　小伊勢より、

[illegible]乃花のあみさきはつく
世の恨し[illegible]さ六位の[illegible]、

松を通り[illegible]の[illegible]
甲乃信別[illegible]

蕪乃柵[illegible]
蔦[illegible]

板乃革屋の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]の[illegible]

人数の中より何を[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

いくさとうむを庵のうち
二町ほど西なる水乃宮ゆなり、
板の屋ねに豆ゝ敷ふく
ゝき焼る仕ハ指柿むきて、
小伝ふうかしてかしこまれ
和鮮の給ものなる高台の伯敬て、
わゝ豆ハを球とりてるるるひよう
文目う法ほどなるほれら手まなり、
清ときりて竹をふきゝ
琴夏て乗竹ゝ入隠の偈、
使ゝうゝく脇のうゆ奏
文級のまゝわ水を写なり、

加州
成田家蔵板

成田家蔵板

復古
一のゝ清